

Official newspaper of the JATS 76th Annual Meeting

第76回日本胸部外科学会定期学術集会 閉会

発行所

日本胸部外科学会

特別号

10月19日(木)～21日(土) 学会3日間の様子



閉会の挨拶をする齋木統括会長



キッチンカーで賑わう展示棟前広場



パネルディスカッション(心臓)の様子

10/19(木)から21日(土)まで仙台国際センターにて開催された第76回日本胸部外科学会が閉会となりました。日本全国そして海外からも、沢山の皆さまにここ仙台にお集まりいただき、それぞれのセッション会場に於いて多数の議論が繰り広げられ、第77回大会へとバトンを渡すことが出来ました。

また学会期間中の様子をDailynewsとしてお届けして参りましたが、本特別号では特に3日目(10/21)の出来事を掲載し、締めくくらせていただきます。お読みいただきありがとうございました。



食道

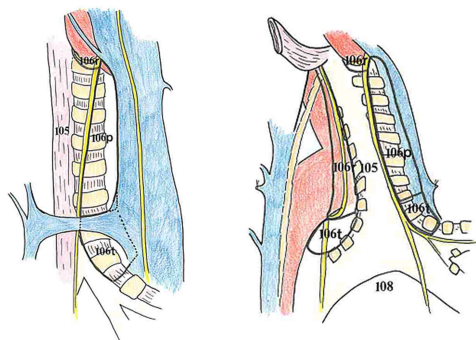
渡邊雅之先生 分野会長講演



＝分野会長講演を行う 渡邊雅之 先生＝

「食道癌治療成績の向上を目指して」

A novel LN classification



To go one step further

- ・食道癌手術手技の向上
～学会や論文を通じた情報共有がさらなる一歩に
- ・低侵襲手術
～予後やQOLの改善につながる可能性
- ・あきらめないがん治療
～集学的治療の進歩でさらに予後の向上を
- ・チーム医療
～ハイリスク症例に対する介入
- ・基礎研究
～臨床と基礎の橋渡しから新たなシーズの開発を

会期最終日の10/21に、がん研究会有明病院副院長・食道外科部長の渡邊雅之先生による食道分野会長講演が、熊本大学馬場秀夫教授のご司会のもと行われました。先生がこれまでに従事されてきた一般外科診療および救急医療、離島医療や大学病院診療、基礎研究、若手教育など、様々な領域に及ぶ幅広い経験が、現在のがん専門病院における超専門的診療の礎となっているということが非常によく分かるご講演内容でした。またご専門である食道癌診療については、手術手技および低侵襲手術の発展や集学的治療の開発、また周術期管理の向上や基礎研究の推進など、まさにご講演タイトルのように食道癌の治療成績を向上させてきた実績をご紹介いただきました。多くの業績とともに、多くの門弟を育ててきたそのお姿とお人柄に、会場から敬意の拍手が盛大に送られ、講演は盛会に終わりました。

食道

◆ ◆ 注目のセッション ◆ ◆

10/21に開催されました

ビデオシンポジウム

「cT3br、cT4局所進行食道癌に対する低侵襲手術の有用性」

10/21午前にビデオシンポジウム「cT3br、cT4局所進行食道癌に対する低侵襲手術の妥当性」が小澤壯治先生、亀井尚先生のご司会で開催されました。日本食道学会理事長竹内裕也先生とChang Gung Memorial HospitalのYin-Kai Chao先生より、MIE（従来の胸腔鏡手術）とRAMIE（ロボット支援手術）の現況およびその比較試験であるREVATE trialに関する基調講演をいただきました。その後国内6施設の先生方より、素晴らしい手術ビデオとともに、局所進行食道癌における低侵襲手術の有用性についてご発表をいただきました。本セッションではRAMIEについての演題が多く含まれており、今後cT3br/cT4といったより進行した局所進行食道癌においても、従来のMIEより精緻な操作が可能となるRAMIEが適応される機会が一層増えるものと実感をいたしました。



ビデオシンポジウムの様子



左；竹内先生、中央；亀井先生、右；Chao先生

ワークショップ

「食道癌手術の周術期管理を考える」

10/21午後には本会最後の食道分野セッションとなりますワークショップ「食道癌手術の周術期管理を考える」が、掛地吉弘先生、竹内裕也先生のご司会のもと行われました。Virginia Mason Medical CenterのDonald E Low先生より、食道切除術におけるERASの現況と今後の展望について基調講演をいただき、引き続き国内5施設の先生方より、各施設における多職種連携を含めた周術期管理の取り組みと治療成績をご提示頂きました。こうした取り組みについては、周術期はもちろんのこと、退院後も多職種で患者管理を継続、維持していく創意工夫が今後の課題となりそうです。本セッション終了後、Donald E Low先生の海外名誉会員の表彰式も行われました。



ワークショップの様子



表彰されたDonald E Low先生

JATS Case Presentation Awards

最優秀演題

10月21日(土)にJATS Case Presentation Awardがあり、各地方会で事前に出選された演題の中から、厳正な審査により以下の方々が最優秀演題となりました。おめでとうございます。

心臓

CCPA4-4

この度は最優秀演題賞にご選出頂きましてありがとうございます。地方会から各施設を代表する先生の質の高いご発表を拝聴させていただき、私自身今回の発表を通して成長させていただきました。ご指導いただきました先生には改めて御礼申し上げます。今後も臨床と研究の“二刀流”で日本の心臓血管分野におけるオピニオンリーダーとなる目標に向かって精進してまいりたいと思います。

三上 拓真 先生 (国立病院機構 帯広病院 心臓血管外科)



CCPA1-8

「A case of heart transplantation after total aortic replacement in a patient with Marfan syndrome」上記演題名で発表させて頂きました。マルファン患者における心臓移植の報告は散見されますが、大動脈全置換後の移植例の報告はこれまでありません。長期に渡る複数回の手術加療、様々な合併症を乗り越え心臓移植を完遂できた症例をまとめるに当たり、これまで治療に携わられた医療スタッフには畏敬の念を抱きました。たまたま私が今回CPA最優秀演題という栄誉な賞に出選頂きましたが、当教室の名誉だと思います。御指導頂いた先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

田子 竜也 先生 (東北大学病院 心臓血管外科)



呼吸器

LCPA2-7

この度は、日本胸部外科学会JATS Case Presentation Awardsにおいて、最優秀演題に出選していただきましたこと、大変光栄に思います。免疫チェックポイント阻害剤の登場により、近年、切除不能非小細胞肺癌の治療は大きく変わりつつあります。本演題では、放射線化学療法に続くデュルバルマブ投与(PACIFICレジメン)後のサルベージ手術が奏効した臨床病期III期症例を取り上げました。今回の受賞を励みに肺癌の予後改善に向けて取り組んで参る所存です。

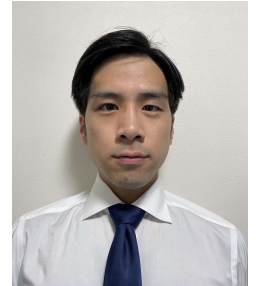
眞鍋 堯彦 先生 (産業医科大学 呼吸器・胸部外科)



LCPA3-4

この度は最優秀演題に選出されましたこと、大変光栄に存じます。重症感染症例に対して最初から100点満点の治療実施は非常に困難であり、状況に応じて治療方針を修正し、より良い治療法の選択を心掛けたことが本症例の重要ポイントでした。複数の場面において、我々が検討した治療戦略を簡潔かつ明瞭に短い時間で発表することには大変苦労しました。今回の受賞を励みに、今後もより良い医療を目指して日々精進して参りたいと思います。

小田部 誠哉 先生 (国立病院機構 東広島医療センター 呼吸器外科)



食道

ECPA1-1

身に余る賞を頂き大変光栄に思います。ノミネートされた先生方の論理展開やスライド構成等多くのことを学び、活発な議論に参加して各症例を深めることができました。若手のうちにこのような贅沢な機会を頂けたことを感謝し、慢心することなく来年以降も挑戦しつづけようと思います。

黒田 英里 先生 (国立国際医療研究センター 外科)



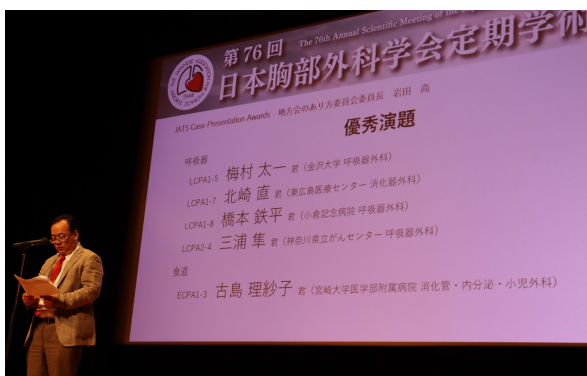
Case Presentation Awards 最優秀演題・優秀演題 授賞式



最優秀演題発表の様子



最優秀演題受賞式に参加された黒田先生と田子先生



優秀演題賞発表の様子



優秀演題の授賞式に参加された皆さま
おめでとうございます！

JATS Best Ground Presentation Awards

最優秀演題

学会期間中に開催された多数のGroud Presentationの中から、以下の方々がBest Ground Presentation Awardとして最優秀演題として選出されました。おめでとうございます！

心臓

CP36-1

この度は本賞を賜りましたこと、謹んで御礼申し上げます。進化した発表形態の試みにより、従来以上の聴講者が集まり活発な議論をなされていたことは非常に印象的でした。本発表では、thromboelastographyの単一的な導入ではなく、従来の止血戦略と調和させより発展した戦略を練ることの重要性を示しました。さらなる安全かつ効率的な医療発展の一助になれば幸いです。今回の受賞を励みに、尚一層の努力を惜しまずに精進して参ります。

平尾 慎吾 先生（倉敷中央病院 心臓血管外科）



CP27-7

素晴らしい演題の中、このような賞に選んでいただきまして本当に嬉しく思います。臨床の中で得られたClinical Questionから、次の臨床に生かせる研究ができたこと、それらを元に多くの先生方からご意見を頂けたことが、今回の学会で得られた大きな財産と考えております。最後に、忙しい中、手術指導だけでなく、学術的にも指導に尽力して頂いている先生方に心より感謝申し上げます。

山田 翔平 先生（大阪大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学）



CP3-8

この度は素晴らしい賞に御選出いただきまして誠に有難うございました。本多施設共同研究は、多くの先生方のご協力のもと遂行できました。この場を借りて御礼申し上げます。本学会の形式では、これまでのポスター発表と比べ、今後の本研究の発展に繋がる濃密なディスカッションができました。引き続き、本邦の先天性心疾患患者の予後改善のために努力を続けて参りますので、皆様、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

富永 佑児 先生（国立循環器病センター 小児心臓外科）



呼吸器

LP17-6

この度はベストグラウンドプレゼンテーションに選出頂き、驚きと共に大変嬉しく思います。基礎研究を題材とした発表をさせていただきましたが、聴衆の先生方が興味深く質問していただき大変充実した内容とすることができました。このような賞に選ばれたことは、当院呼吸器外科渡辺教授、免疫制御医学部門一宮教授のご指導ご鞭撻があったからです。これからも慢心することなく、努力していきたいと思ひます。

佐藤 太軌 先生（札幌医科大学 呼吸器外科）



JATS Best Ground Presentation Awards

最優秀演題

呼吸器

LP4-8

本学術集会では、従来のポスター発表がグラウンドプレゼンテーションとなったことで、例年以上に熱気を伴った活発な議論が繰り広げられていると感じました。私自身も、緊張感のある中でも楽しみながらの発表となりました。その中で、受賞できたことを大変光栄に存じます。本演題を評価して下さった座長・同セッションの発表者の先生方、ならびに濱野教授をはじめとする医局員に感謝を申し上げます。

吉峯 宗大 先生 (山口大学大学院 器官病態外科学)



食道

EP10-3

この度は、輝かしい賞を頂戴し誠に光栄に存じます。食道外科に携わって十数年、多くの先輩方にご指導いただき、また、患者さんたちからも多くのことを教えていただきました。これからも初心を忘れることなく、一人一人の患者さんと真摯に向き合い、精進して参ります。食道疾患診療の更なる発展に向けて、後輩の教育にも尽力いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

前田 直見 (岡山大学医学部 消化器外科)



開
催
さ
れ
ま
し
た
に

『第18回胸部外科女性医師の会』 ライフサイエンス業界におけるDiversity and Inclusion— リーダーシップとキャリア形成

10月19日胸部外科併設、第18回女性医師の会が開催されました。今回はSan Francisco Medical Centerの心臓外科部長であるElaine Tseng先生、バイエル薬品株式会社より梶川麻里子先生にご講演いただきました。Elaine Tseng先生からは胸部外科部長になるまでのご自身のキャリアまでの道のり、そして現在の臨床、研究、教育について取り組んでいることとお話され、育児をしながら、またご家族の大きな協力を得ながらこれまで外科修練を行われてきたことを述べられました。梶川先生からは、女性が仕事をする際の障害、現在の社会の対応など様々な問題点を挙げながら、女性の社会での活躍を応援できるよう会社で取り組まれていることについてご講演されました。最後の質疑応答で、「女性は男性と同じである必要はない。女性は女性の強みを生かして仕事をすればよい。」というご発言が印象に残りました。世界で活躍する女性リーダーがいること、そしてそのような社会に向かって社会が動き出そうとしていることを実感しました。今後一層女性胸部外科医が増えることを期待いたします。



= 胸部外科女性医師の会に参加された皆さま =